

経営に対する効果（最終的目標指標）

ワーク・エンゲージメントの向上

*UWESとは、「活力」「熱意」「没頭」に関する質問をスコア化したもの

年度	2020	2021	2022	2023
測定結果 (UWES)				回答168名 2.39
総合的に見て、城西病院に満足している			40%	37%

*総合的に見て、城西病院に満足している「はい」以上の回答を対象

ワーク・エンゲージメントは、2023年度よりUWESを使用し測定している。厚生労働省の労働経済白書(令和元年度版)によれば、全体のワーク・エンゲージメント・スコアは3.42(医療・福祉関係専門職3.46)となっており、当院は2.39と低い結果になった。目標を2030年度までに3.46以上に設定し、ワーク・エンゲージメントを向上させる取り組みとして健康経営の活動を促進させることは勿論のこと、適切な人事評価、労働環境や職場環境の改善等課題に取り組む。健康経営に関しては、2023年度から全員参加型の新しい施策を取り入れ、また健康経営表彰制度を創設した。尚、年に1回職員対象に意識調査を行っており「総合的に見て、城西病院に満足している」についても重要指標として2030年度までに50%以上を目標にしている。

アブセンティーズムの減少

*アブセンティーズムとは、心身の体調不良による仕事の欠勤/休業の状態

年度	2020	2021	2022	2023
メンタルヘルス不調	1人	1人	3人	1人
メンタルヘルス以外の疾病	0人	1人	3人	0人

疾病による休業者の増加は、人的資源の損失と生産性低下が直接結びつく非常に大きな問題であり、また社会保障の増大をも意味する。この問題の低減を健康経営の目標指標とし、当院が取り組みべき課題を抽出し、実行していく。そのために、健康診断や再検査、ストレスチェックの受診等で疾病の早期発見、必要に応じて産業医や保健師等が関与することで早期治療に結びつけていく。健康経営戦略マップの確実な実行が重要であり、またその効果もあり、2023年は2022年より低減している。

プレゼンティーズムの減少

*プレゼンティーズムとは、健康に問題を抱えつつも仕事をしている状態

年度	2020	2021	2022	2023
測定結果 (WHO/HPQ)				回答121名 60%

プレゼンティーズムについては2023年度から測定を開始した。測定方法はWHO/HPQ(健康と労働パフォーマンスに関する質問紙)を用いて、プレゼンティーズムの損失割合(10-質問3の回答=損失割合)を算出した。その結果、日本の調査結果平均58%(損失42%)と比較して65%(損失35%)と比較的良好な結果となった。花粉症や睡眠不足、メンタルヘルスの不調等、疾病リスクに繋がる潜在的リスクの低減を目指し、その要因を取り除くためにアブセンティーズム同様に疾病の早期発見、早期治療を目指していく。具体的対策として、医療費補助(院内受診)や内外の相談窓口の設置等を行っている。

施策（取り組み）の測定結果

健康診断の受診率

年度	2020	2021	2022	2023
対象人数	191人	196人	206人	229人
受診率	100%	98.1%	95.9%	100%

*2023年は1月31日現在

原則自院で受診とし、ICTで健診の予約から結果配信までを管理。受診状況をリアルタイムで把握し受診率実質100%を達成。



健康診断の案内（受診の義務付け等を説明）

再検査・精密検査の受診率

年度	2020	2021	2022	2023
対象人数		50人	64人	77人
受診率		80.0%	81.3%	76.7% (集計中)

プレゼンティーズムやアブセンティーズムに繋がるリスクを低減するため、健康診断は終わってからも大切である。産業医の指示、管理の下、上長経由で対象者に受診勧奨を行い、前回より受診率が上がっている（2023年度分は2024年8月現在の数字）。

健康診断有所見率

年度	2020	2021	2022	2023
対象人数	196人	208人	211人	230人
有所見率	49.4%	51.9%	46.9%	55.6%

メタボ健診該当者率

年度	2020	2021	2022	2023
対象人数		108人	105人	118人
該当者率		12%	11.4%	16.1%

* 対象40歳以上

健康診断の有所見率は組織の健康の物差しとも言える指標である。厚生労働省が公表している令和4年度の定期健康診断から見た有所見率の推移は55.89%となっており、当院はそれを下回る傾向にあるものの2023年は前年より増加している。この指標の推移と健康経営の因果関係の分析は始まったばかりであるが、まずは数字の低減を目指したい。尚、メタボ健診該当者率は有所見率に比例して推移している。

特定保健指導実施率

年度	2020	2021	2022	2023
対象/実施	14/4	10/5	12/6	16/9
実施率	28.6%	50%	50%	56.3%

* 対象40歳以上

健康保険組合連合会東京連合会が発行する「健康優良企業 銀の認定」で採点項目となっており、当院でも実施率向上に力を入れている。対象者には担当保健師より利用勧奨を行い、実施率は厚生労働省が発表している特定保健指導の保険者種類別の実施率22.7%(総数)を上回っている。



スコアリングレポート重点指標

生活習慣病リスク保有者の低減（高血圧・肝機能）

年度	2020	2021	2022	2023	2024
高血圧 (改善101以上)	100	113	105		
肝機能 (改善101以上)	100	109	126		

* 2020年度実績を100とした場合

目標指標の一つである生活習慣病リスク保有者(高血圧・肝機能)も改善している。

適正な生活習慣を有する者の割合（喫煙）

年度	2020	2021	2022	2023	2024
喫煙 (改善101以上)	100	101	102		

* 2020年度実績を100とした場合

喫煙率

年度	2020	2021	2022	2023	2024
現在喫煙している		14%	13%	12%	目標 10%

スコアリングレポートの適正な生活習慣を有する者の割合、喫煙習慣リスク(改善101以上)及び特定健診問診項目の「現在喫煙している」の指標を使い喫煙率低減を目指している。禁煙の取り組みとしては、健康経営推進会議からの情報発信や、喫煙者に対して産業医による禁煙外来の受診勧奨(医療費補助)を行っている。業態平均で見ると若干低い数字であるが、引き続き重点目標として取り組み2030年度までに0%を目指す。



健康経営推進会議から情報提供

適正な生活習慣を有する者の割合（食事）

年度	2020	2021	2022	2023	2024
食事 (改善101以上)	100	143	111		

*2020年度実績を100とした場合

生活習慣改善の指標として、スコアリングレポートの適正な生活習慣を有する者の割合、食事(改善101以上)を使用している。また、特定健診問診項目の「朝食を抜くことが週3回以上ある」や「就寝前2時間以内に夕食を取ることが週3回以上」の低減も目指している。1日の始まりである朝食を摂ることで、活力が湧き、生産性が向上する。肥満予防にも有効のため、毎日朝食を摂ることは健康の基本であり、不規則な食生活で内臓脂肪の蓄積を予防するためにも、就寝前2時間以内に夕食を取るように控えることや、仕事で就寝まで時間を空けられない場合は消化の良いものを摂るように勧めている。

食生活改善教室の実施



参加者にノンアルコールビールを配布

アルコールと脂質代謝異常

2024/3/19
テーマ
「アルコール
の知識」



2023/9/12
テーマ
「夜遅い時間の
食事の摂り方」

食生活改善を目標に管理栄養士、医師、保健師が講師を務め、年2回開催している。2023年度は「夜遅い時間の食事の摂り方」「お酒の知識」をテーマに実施。参加率は目標(20%)を超える23%(52名)となり、大いに盛り上がった。参加者の殆どが医療従事者であるが、改めて話しを聞くことで自身の食習慣を見直す機会となった。

適正な生活習慣を有する者の割合（運動）

年度	2020	2021	2022	2023	2024
運動 (改善101以上)	100	143	131		

*2020年度実績を100とした場合

運動習慣の指標として、スコアリングレポートの適正な生活習慣を有する者の割合、運動(改善101以上)を使用している。また関連指標として、特定健診問診項目の「歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施」や「1回30分以上」の改善も目指している。運動習慣を改善することで、アブセンティズムの防止に繋げることは勿論のこと、高齢化社会の進展に伴う健康寿命延伸のきっかけとしたい。当院の指標は改善傾向を示しており、引き続き施策等の活動を通じて更なる改善を期待する。

肩こり・腰痛予防体操



参加者の声

「元々運動習慣がなく、何から始めたらいいかわからずでしたが、簡単なストレッチを教えてくれたので、自宅や職場でも取り組むことができ、助かっています。」



参加者の声

「15分ほどのストレッチで終わった後は身体も気持ちすっきりします。座って出来るので自分のデスクでもストレッチをしてリフレッシュタイムを作っています。」



理学療法士による実技指導を行うことで、運動の習慣化を促し、また肩こり・腰痛の予防、改善を目的として月2回実施している。当初は参加者が少なかったため小スペースで行っていたが、継続することで徐々に参加者も増え、広いスペースに場所を変えて実施している。2024年7月には「夏の体操まつり」を開催し42名が参加。2024年度の参加率は目標の20%を超えた23%で推移している。